

戸田市横断歩道橋長寿命化修繕計画 改訂版

令和8年5月

戸田市 都市整備部 道路管理課

1 長寿命化修繕計画策定の背景及び目的

2026年（令和8年3月）時点において、本市では2橋の横断歩道橋及び2橋の高架通路（以下「横断歩道橋等」という。）を管理している。令和8年度には建設後50年を経過する横断歩道橋等は、2橋（50.0%）となり、令和18年度には4橋全てが50年に達する。

今後、これらの横断歩道橋等の修繕等に要する費用が急激に増大することが予想される中、本市では維持管理費用のコスト削減を図るとともに、より一層利用者の安全を確保することを目的として、次に示す視点により長寿命化修繕計画を策定（改訂）し、計画的に維持・修繕を実施する。

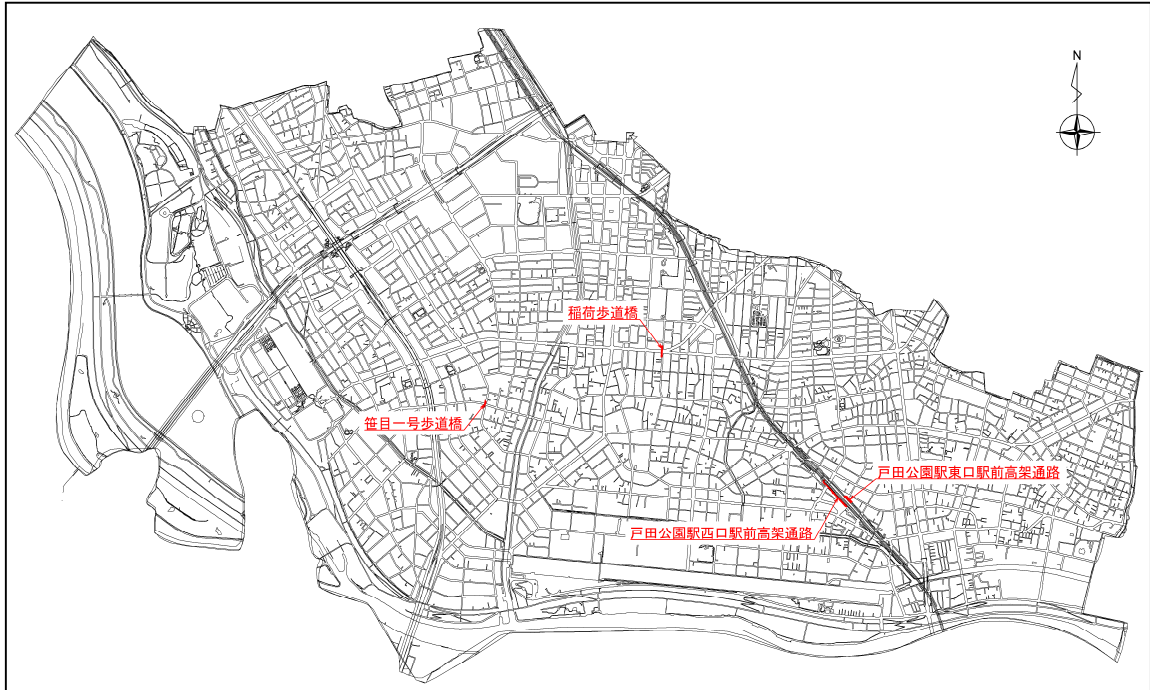
- ・安全で信頼できる横断歩道橋等の適切かつ合理的な維持管理
- ・限られた予算内での横断歩道橋等の延命化のための予防的対策を主体とする修繕計画
- ・横断歩道橋等の維持管理が適切に実施されていることの市民への周知

2 長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋等

全管理横断歩道橋等4橋（うち計画の対象横断歩道橋等4橋）

表－1 対象横断歩道橋等一覧

No.	横断歩道橋等名	路線名	横断歩道橋等延長	橋長	有効幅員	架設年次	供用年数 (R8年3月時点)	所在地
1	戸田公園駅西口駅前高架通路	市道第3198号線	289.2m	226.5m	4.0m	1986年	39年	本町4丁目地内
2	戸田公園駅東口駅前高架通路	市道第3197号線	54.9m	32.7m	5.0m	1986年	39年	本町4丁目地内
3	稲荷歩道橋	市道第7084号線	65.8m	23.0m	2.0m	1976年	49年	新曽地内
4	笹目一号歩道橋	市道第4019号線 市道第3152号線	41.1m	16.9m	1.2m	1970年	55年	笹目3丁目地内



図－1 横断歩道橋等位置図

3 計画期間

5年に1回のメンテナンスサイクルを踏まえ、計画期間は5年間とする。なお、点検結果を踏まえ、計画を改訂する。

【計画期間：令和8年度～令和12年度】

4 メンテナンスサイクル及び老朽化対策における基本的な考え方

横断歩道橋等の道路構造物が急速に老朽化していくことを踏まえ、道路管理者の責任による点検→診断→措置→記録というメンテナンスサイクルを確立するために具体的な点検頻度や方法等が法令で定められた。

また、国土交通省は、「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」（平成26年4月）により、メンテナンスサイクルを持続的に回すよう取組むべきと提言した。

本市が管理している横断歩道橋等についても、今後、更なる老朽化の進行が懸念されることから、表－2の定期点検要領等に基づき、5年に1回の頻度で、近接目視による点検を実施し、表－3の判定区分に基づき、健全性の判定を4段階で区分して横断歩道橋等の状態を把握していく。

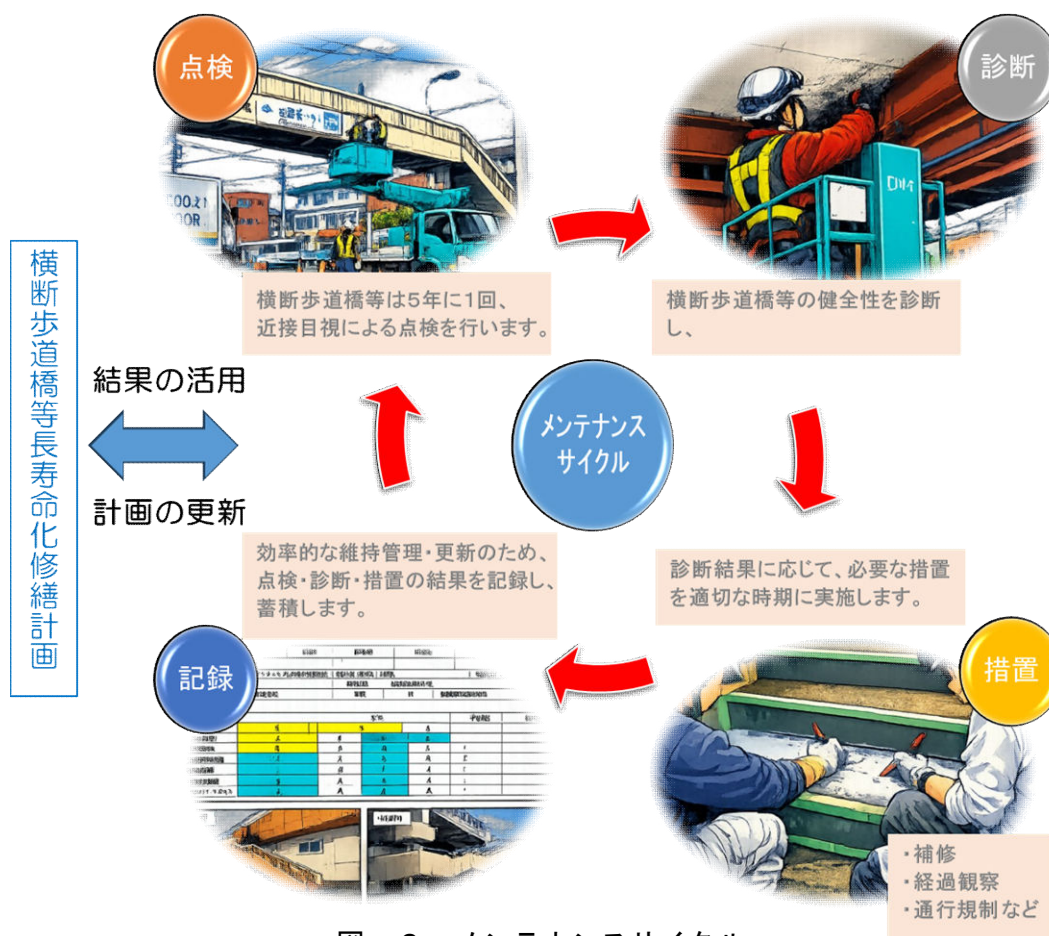
その後、図－2に示すとおり、点検・診断結果に基づき、必要な措置を適切な時期に着実かつ効率的・効果的に講じ、点検結果と共に記録してメンテナンスサイクルを回すことで老朽化対策を推進していく。

表－2 使用する定期点検要領等

名称	発行機関	発行年月
横断歩道橋定期点検要領	国土交通省 道路局	令和6年3月
歩道橋定期点検要領	国土交通省 道路局 国道・技術課	平成31年3月
橋りょう補修の手引き(案)	埼玉県 県土整備部 道路環境課	令和元年11月

表－3 判定区分

区分	状態
I 健全	横断歩道橋等の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	横断歩道橋等の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	横断歩道橋等の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	横断歩道橋等の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態



図－2 メンテナンスサイクル

5 対策の優先順位の考え方

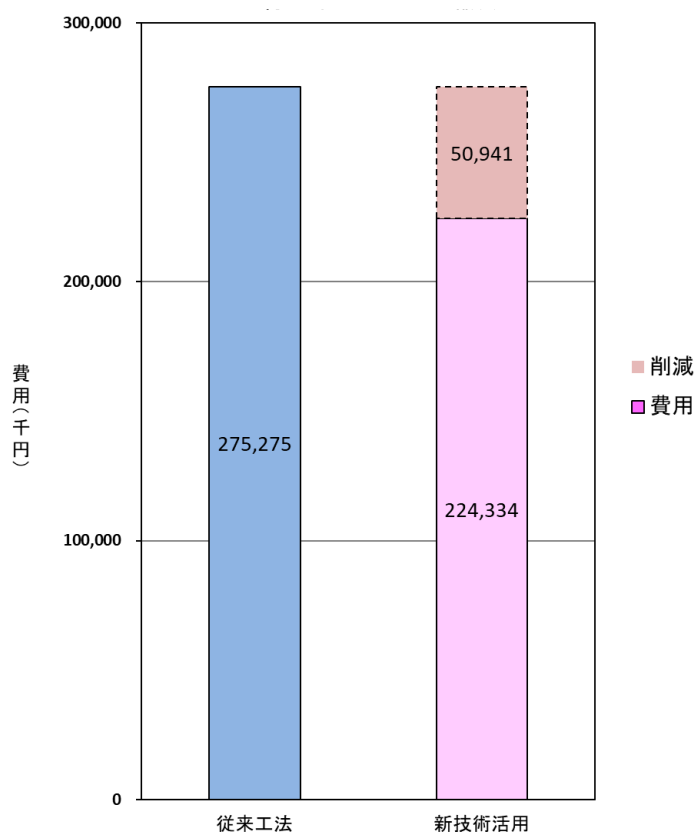
点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図れるよう必要な措置を講ずる。

なお、対策の優先順位は、横断歩道橋等の健全性のほか、第三者への影響度や路線の重要度などを総合的に勘案して判断する。

6 新技術等の活用方針

点検や修繕等の実施にあたっては、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログ等を参考として新技術を活用し、事業の効率化やコスト縮減を図る。

本市では、管理する横断歩道橋等に対して、点検作業の効率化や修繕工法・材料等についての新技術・新工法を活用することで、令和12年度までに約5千万円のコスト縮減を目標とする。



図ー3 新技術活用によるコスト比較

7 集約・撤去の検討

将来の維持管理コストの縮減を図ることを目的に、横断歩道橋等の利用状況や交通量、迂回路の有無等を踏まえ、代替横断が可能と判断される横断歩道橋等について、地元の意見を踏まえながら集約・撤去を検討していく。

8 費用の縮減に関する具体的な方針

本市の横断歩道橋等は、老朽化が顕著になってきており、今後、維持管理コストの更なる増大が懸念される。

そのため、集約・撤去によるコスト縮減のほか、施設の機能や性能に不具合が生じてから対策を行う「事後保全」から、不具合が発生する前に対策を行う「予防保全」へ転換することで、総合的なコスト縮減を図る。

9 次回点検時期及び修繕時期

令和7年度に定期点検を実施した結果、すべての横断歩道橋等の健全性判定区分は、「Ⅱ：予防保全段階」であった。このことから、今後の定期点検及び修繕の時期は、表-4のとおりとする。

ただし、点検結果や予算措置状況等に応じて、見直す場合がある。

表-4 横断歩道橋等の点検時期及び修繕時期

○：定期点検、◎：修繕設計、●：修繕工事

横断歩道橋等名	R7年度 点検結果 ※	対策 内容	対策の時期					5年間の概算事業費 (百万円)				備考
			R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度	定期 点検	修繕 設計	修繕 工事	合計	
戸田公園駅西口 駅前高架通路	Ⅱ	修繕	◎	●	●		○	14 (R12年度)	20 (R8年度)	241 (R9年度～ R11年度)	275	予防保全の観 点から修繕
戸田公園駅東口 駅前高架通路	Ⅱ	修繕	◎			●	○					0
稲荷歩道橋	Ⅱ	経過 観察					○		0	0		必要に応じて 維持工事対応
笹目一号歩道橋	Ⅱ	経過 観察					○		0	0		必要に応じて 維持工事対応

※「Ⅰ」健全、「Ⅱ」予防保全段階、「Ⅲ」早期措置段階、「Ⅳ」緊急措置段階

10 予防保全型維持管理の導入によるコスト縮減

従来の事後保全的な維持管理（およそ29.2億円）から予防保全的な維持管理（およそ13.9億円）に転換することで、今後50年間で約15億円の縮減が見込まれる。

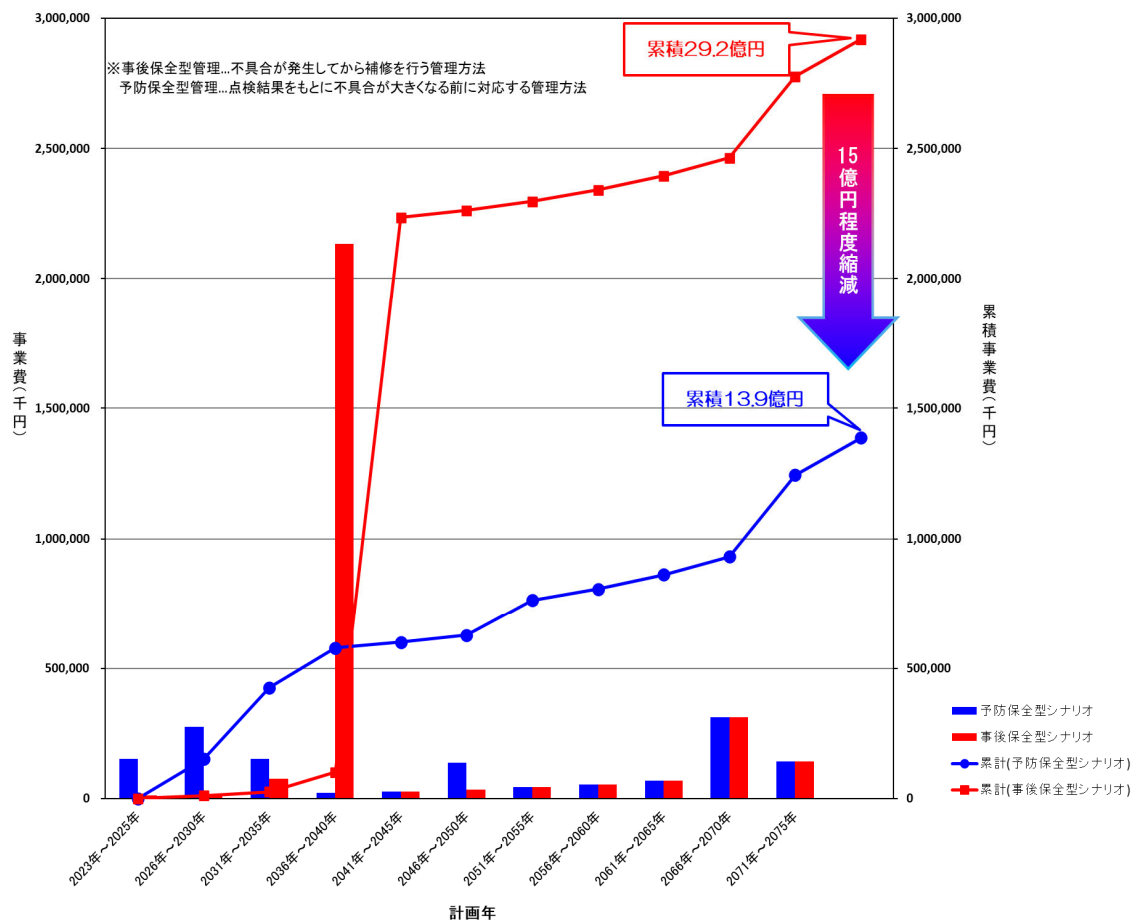


図-4 事後保全型シナリオと予防保全型シナリオの事業費の比較

1.1 改訂等履歴

表-5 戸田市横断歩道橋長寿命化修繕計画の改訂等履歴

年月	履歴	改定内容	備考
令和4年3月	策定		
令和5年3月	改訂	新技術等の活用方針及び費用の縮減に関する具体的な方針を追加	
令和5年5月	改訂	費用の縮減に関する具体的な方針に短期的な数値目標を追加	
令和8年5月	改訂	横断歩道橋等の定期点検結果に基づく長寿命化計画の見直し	